

## 電気学会研究会への投稿の手引き

### 【まえがき】

電気学会研究会は会員の皆様が、専門分野毎に論文を発表し、討議できる公開の場として開催されるものである。

研究会への論文投稿にあたっては、この趣旨に従い、本手引きによって運用処理されるので、投稿にあたっては必ず一読すること。

### 1. 著者の資格

本学会会員の有無に関わらず、研究会への論文投稿ができる。

### 2. 研究会の名称と取り扱う分野

研究会の名称と取り扱う分野を付表1に示す。

### 3. 発表申込から投稿までの流れ

発表者は、全て電気学会電子投稿システムを用いて申込、投稿を行うものとする。

(1)発表希望者は、発表募集中の研究会一覧から、定められた申込期日内に発表希望の研究会に必要な事項を入力し、申込登録を行う。

なお、申込期日を経過した後の申込登録は受け付けない。

また、学会誌会告欄にも「発表論文を募集中のテーマ付研究会」を掲載しているので、併せて参照のこと。

(2)研究会へ発表申込みの登録をした者は、電子投稿システムから発信される原稿執筆依頼の電子メールを受け取った後、定められた期限内に原稿の投稿を行う。

また、この際に、申込時に入力した論文タイトルや著者情報等に変更が出ていた場合は、修正を行う。

なお、投稿期日を経過した後の投稿は受け付けない。

(3)電子投稿システムの詳しい手順については、Web（電子投稿システムマニュアル）を参照とすること。

### 4. 原稿締切日

電気学会事務局は、執筆依頼時に、原稿締切日を伝える。

### 5. 原稿について

(1)著者の責任において、電気学会の倫理綱領・行動規範に抵触しないことを確認の上、投稿する。

(2)著者は、「電気学会研究会原稿の書き方」（付録2）に基づき、原稿執筆を行う。

(3)研究会論文は、A4判原寸の簡易オフセット印刷（図、表、写真を含め、白黒印刷）により出版する。また、提出された原稿は電子図書館においても販売する。

(4)研究会資料は、1回の研究会論文を1～2冊に合本した形で製本する。

(5)原稿は所定の書式に則り、PDF形式の原稿としてそのまま印刷できる体裁のものを作成すること。

(6)カラーでの原稿も受け付けるが、印刷は白黒にて行うので、図や表の濃淡が不明確になる可能性があることを改め確認すること。

また、図、表、写真などの表題は原則として日本語・英語併記、説明は英語表記とする（部門共通・運要5-1-2）。

(7)参考文献は原則として英語表記とする。ただし、英文表記のない文献を引用する場合は日本語でも差し支えない(記載方法は「電気学会研究会原稿の書き方」を参照のこと)。

6. 原稿のページ数について

図・写真・表も含んで原則として6ページ以内とするが、やむを得ない場合は、14ページ未満の原稿は受け付ける。

なお、超過ページがある場合は原稿投稿の際に電子投稿システムにて必要事項を記入する。1ページにつき5,000円(税別)の請求となる。

7. 著作権

電気学会研究会に投稿された論文の著作権は、原則として電気学会に譲渡するものとする。著作権の譲渡は、原稿の投稿をもって代える。

(1) 著作権譲渡は著作権法第21条から28条の全てを言う。

(2) 他の著作物からの引用にあたっては、著作権上の問題が生じないように十分に注意すること。

(3) 著作権の譲渡を行っても、以下の権利は著者の手元に残るものとする。

\*著作権以外の例えば特許権のような権利

\*著者が自分の業績をまとめる際にその一部分として使用すること。

\*著者が営利を目的とせずに行う複製(例えば教育資料としての使用)

\*その他、日本の著作権法に反しない利用

8. 別刷について

(1) 発表論文の別刷を希望される場合は、原稿投稿のときに電子投稿システムにおいて必要事項を登録する。

(2)別刷の価格は下表の通り(税別)。

注文部数	別刷料金	注文部数	別刷料金
30部	9,000円	200部	30,000円
50部	12,000円	250部	32,000円
100部	18,000円	300部	34,800円
150部	24,750円		

9. その他

研究会論文の申込、投稿、発行は上記の手順に基づき行われるものであり、本会研究調査会議はこのことによって生じる不利益に対しての責任は一切負わない。

以上

(付則)

1. 平成13年4月17日調査会議にて承認。
2. 平成14年4月10日調査会議にて5項(6)、6項、10項(3)の見直し、5項(7)の追加について承認。
3. 平成16年3月3日、理事会において一部改正。
4. 平成17年4月14日研究経営会議にて一部改正。
5. 平成21年7月16日研究経営会議にて一部改正。
6. 平成26年6月15日研究調査会議にて一部改正。
7. 平成30年4月10日研究調査会議にて一部改正。
8. 平成31年2月5日研究調査会議にて付3の見直しについて承認。
9. 平成31年4月10日研究調査会議にて一部改正。

(付表1)

## 各研究会の取扱う主な研究分野

〔基礎・材料・共通部門（A部門）〕 Fundamentals and Materials Society	
英文略称 研究会名	研究会英文名称 取扱う主な研究分野
F I E  教育フロンティア (旧：教育・研究) * 1	Frontiers in Education  1. 教育・研究に関する問題一般
EMT  電磁界理論  * 2	Electromagnetic Theory  1. 電磁界の基礎理論 2. 相対論(重力波を含む) 3. 数学的解析理論と応用 4. 数値解法理論, 計算電磁気学 5. 量子電磁力学 6. 波動情報処理 7. 他系との結合理論と解析(レーザ, プラズマ, 電子ビームを含む) 8. 非線形問題 9. 放射, 伝搬 10. 散乱回折 11. 周期構造 12. ランダム媒質・粗面 13. 過渡解析 14. 高周波漸近解法 15. 逆問題・逆散乱 16. 導波路
EMC  電磁環境  * 3	Electromagnetic Compatibility  1. 電磁妨害の発生要因(高電圧, 静電気, 大電流, 放電, パワーエレクトロニクス機器など)と対象設備 2. 電磁妨害の発生実態 3. EMCのための計測技術 4. 電磁妨害の対策技術 5. 国内外の EMC 関連規格
L A V  光応用・視覚	Light Application and Visual Science  1. 光(紫外, 可視, 赤外放射)の発生と制御 2. 光の計測

	<ul style="list-style-type: none"> <li>3. 視覚情報, 照明環境, 画像技術</li> <li>4. 光放射と生体 (動物系, 植物系)</li> <li>5. 産業への応用</li> <li>6. その他関連事項</li> </ul>
<p style="text-align: center;">I M</p> <p style="text-align: center;">計測</p>	<p style="color: blue;">Instrumentation and Measurement</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 計測基礎</li> <li>2. 計測標準</li> <li>3. 電気・電子計測</li> <li>4. 電磁波計測</li> <li>5. 電気・電子応用計測</li> <li>6. 工業計測</li> <li>7. センサ・トランスデューサ, 計測用素子と回路</li> <li>8. コンピュータの計測応用, システム計測</li> <li>9. 計測信号処理</li> <li>10. 計測管理とトレーサビリティ</li> <li>11. その他計測に関する事項</li> </ul>
<p style="text-align: center;">D E I</p> <p style="text-align: center;">誘電・絶縁材料</p>	<p style="color: blue;">Dielectrics and Electrical Insulation</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 誘電特性</li> <li>2. 導電特性</li> <li>3. 絶縁破壊</li> <li>4. 空間電荷効果</li> <li>5. 機械的特性</li> <li>6. 絶縁劣化</li> <li>7. 耐熱性・耐アーク性・耐トラッキング性</li> <li>8. 放射線効果</li> <li>9. 界面電気現象</li> <li>10. 新材料開発</li> <li>11. 電気機器・電子部品誘電・絶縁材料</li> <li>12. 計測・試験法・コンピュータ計測</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>13. 絶縁診断・寿命予測</li> <li>14. 材料選択基礎</li> <li>15. 誘電・絶縁材料データベース</li> <li>16. 誘電材料機能特性</li> <li>17. その他誘電・絶縁材料とその応用に関する事項</li> </ul>
<p style="text-align: center;">M C</p> <p style="text-align: center;">金属・セラミックス</p>	<p style="color: blue;">Metal and Ceramics</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 電気・電子的機能材料</li> <li>2. 機械的機能材料</li> <li>3. 熱的・熱力学的機能材料</li> <li>4. 光学的機能材料</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>5. 化学的機能材料</li> <li>6. 放射線機能材料</li> <li>7. 上記材料のプロセス技術, 評価, データベースに関する事項</li> <li>8. その他機能複合および金属・セラミックスとその応用に関する事項</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>MAG</b></p> <p style="text-align: center;">マグネティックス</p>	<p style="text-align: center;"><b>Magnetics</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 磁性物理</li> <li>2. 磁性材料 (鉄心材料, 軟磁性体, 硬磁性体, 超急冷磁性薄帯 (アモルファス, 結晶質薄帯), 薄膜材料, 複合材料, 記録材料, その他材料)</li> <li>3. 磁性材料試験法</li> <li>4. 非線形磁気応用</li> <li>5. 磁気計測</li> <li>6. 磁気分離</li> <li>7. 電磁アクチュエータ</li> <li>8. 光磁気応用</li> <li>9. 生体・環境磁気</li> <li>10. マイクロ磁気</li> <li>11. 磁気回路</li> <li>12. 磁気流体</li> <li>13. その他マグネティックス関連事項</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>HEE</b></p> <p style="text-align: center;">電気技術史</p>	<p style="text-align: center;"><b>History of Electrical Engineering</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 電気技術史研究の進め方</li> <li>2. 日本の電気技術史に関する調査・研究</li> <li>3. 電気技術 (者) の歴史的 position の検討</li> <li>4. 他学協会や外国などの電気技術史に関連する交流</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>EPP</b></p> <p style="text-align: center;">放電・プラズマ ・パルスパワー</p> <p style="text-align: center;">* 4</p>	<p style="text-align: center;"><b>Electrical Discharges, Plasma and Pulsed Power</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 放電・プラズマ・パルスパワーの基礎</li> <li>2. 放電・プラズマ・パルスパワーの発生および制御</li> <li>3. 放電・プラズマ・パルスパワーの解析および計測</li> <li>4. 多様な環境の放電とその応用技術</li> <li>5. 多様な環境のプラズマとその関連技術</li> <li>6. 多様なパルス電磁エネルギー変換とその利用技術</li> </ul>

\* 1 の研究会は, 平成 14 年 4 月より「教育・研究」から「教育フロンティア」に名称を変更いたしました。

\* 2 の研究会は, 電子情報通信学会との共同設置のものです。

\* 3 の研究会は, 平成 11 年より新設いたしました。

\* 4 の研究会は, 平成 31 年より新設いたしました。

〔電力・エネルギー部門（B部門）〕

Power and Energy Society

英文略称 研究会名	研究会英文名称 取扱う主な研究分野
SA  静止器	<b>Static Apparatus</b>  1. 変圧器 2. コンデンサ 3. 静止誘導器一般 4. 有限要素法による電力機器の電磁界解析法 5. 電力用電力変換，電力用無効電力補償装置
SP  開閉保護	<b>Switching and Protecting Engineering</b>  1. 遮断器 2. 断路器 3. 負荷開閉器 4. 避雷器 5. ヒューズ 6. 閉鎖形開閉装置 7. ガス絶縁開閉装置 8. 開閉保護システム 9. その他関連事項
FTE  新エネルギー・環境	<b>Frontier Technology and Engineering</b>  1. 再生可能エネルギー利用技術（太陽エネルギー，風力エネルギー，水力エネルギー，海洋エネルギーなど） 2. エネルギー変換・貯蔵・利用技術（MHD 発電，燃料電池，水素エネルギー，熱電変換，蓄電池，電気自動車など） 3. 省エネルギー技術，未利用エネルギー利用技術（廃熱利用発電，ごみ発電，熱供給，熱輸送，超電導送電など） 4. 環境保全技術（有害物質除去・無害化，温室効果ガス削減，炭酸ガス分離・固定など） 5. エネルギー技術評価（LCA 評価，エネルギーシステム解析など）
NE  原子力	<b>Nuclear Energy</b>  1. 原子力発電所計測制御 2. 放射線計測 3. 核融合 4. 原子力発電所用電線ケーブル 5. その他原子力・放射線技術に関するもの
EWC	<b>Electric Wire and Power Cable</b>

電線・ケーブル  * 1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 裸線</li> <li>2. 電力用ケーブル</li> <li>3. 絶縁電線, コード</li> <li>4. 巻線</li> <li>5. 通信ケーブル</li> <li>6. その他関連事項 (付属品, 布設, 保守など)</li> </ol>
PE  電力技術	<b>Power Engineering</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電気事業</li> <li>2. 電力系統</li> <li>3. 発電 (電力用回転機を含む)</li> <li>4. 変電</li> <li>5. 送電</li> <li>6. 配電</li> <li>7. 需要設備</li> <li>8. その他関連事項</li> </ol>
HV  高電圧  * 2	<b>High Voltage Engineering</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高電圧の発生, 測定</li> <li>2. 高電圧試験</li> <li>3. 高電圧電界計算</li> <li>4. 絶縁設計と気体, 液体, 固体の高電圧現象</li> <li>5. 汚損高電圧現象</li> <li>6. 雷現象</li> <li>7. 過電圧と絶縁協調</li> <li>8. 高電圧応用</li> <li>9. 高電圧と環境</li> </ol>
ASC  超電導機器  * 3	<b>Applied Superconductivity</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 超電導マグネット技術</li> <li>2. 極低温技術</li> <li>3. 交流超電導技術</li> <li>4. 超電導導体技術</li> <li>5. 解析技術</li> <li>6. 応用技術</li> <li>7. 冷却技術</li> <li>8. その他の関連技術</li> </ol>
PPR  保護リレーシステム  * 1	<b>Power Protective Relaying</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 送電系統の保護</li> <li>2. 発送変電設備の保護</li> <li>3. 配電系統および自家用受変電設備の保護</li> </ol>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>4. 系統事故波および防止保護</li> <li>5. 分散電源連携系統の保護</li> <li>6. 保護リレーシステム技術と密接に関連したローカル制御（自動復旧, AVQC 等）</li> </ul>
<p style="text-align: center;">P S E</p> <p style="text-align: center;">電力系統技術</p>	<p style="text-align: center;"><b>Power Systems Engineering</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 系統計画, 需給計画, 電源計画, エネルギーミックス, アセットマネジメント</li> <li>2. 需給運用, 系統運用, 制御システム (周波数制御, 電圧制御, 安定化システム, 監視制御システム 等)</li> <li>3. スマートグリッド, 需要側管理 (需要側エネルギーマネジメント, デマンドレスポンス 等)</li> <li>4. 分散電源 (再生可能エネルギー, 蓄電システム 等)</li> <li>5. 系統解析, シミュレーション, 予測技術</li> <li>6. 電気事業制度, 電気事業経営, 環境評価 (電力小売自由化, 供給信頼度, 電力ビジネスモデル, 地球温暖化 等)</li> <li>7. 情報処理, 情報通信, サイバーセキュリティ</li> <li>8. その他関連する技術</li> </ul>

\* 1 の研究会は, 平成 16 年 1 月より英文名称, 英文略称を変更いたしました。

\* 2 の研究会は, 平成 16 年 1 月より英文名称を変更いたしました。

\* 3 の研究会は, 平成 26 年 1 月より名称を変更いたしました。

(付表1)

〔電子・情報・システム部門 (C部門)〕

Electronics, Information and Systems Society

英文略称 研究会名	研究会英文名称 取扱う主な研究分野
EFM  電子材料	<b>Electronic Materials</b>  1. 電子材料設計 2. 材料加工プロセス 3. 有機分子材料 4. 医療バイオ素子材料 5. センサー材料 6. 複合電子材料 7. 磁性・スピン材料 8. 超伝導材料 9. ナノ材料 10. レーザ材料 11. 光学材料 12. コーティング材料 13. 新機能材料創成 14. 産業用レーザ 15. 新領域レーザ加工 16. 電子材料評価 17. 表面・界面評価 18. 光物性評価 19. ナノ物性評価 20. その他関連事項
EDD  電子デバイス	<b>Electron Devices</b>  1. 化合物半導体デバイス 2. 集積化デバイス 3. ナノエレクトロニクス 4. メモリ 5. エネルギー変換デバイス 6. パワー半導体デバイス 7. パワー半導体モジュール 8. 電磁波応用 9. 高周波回路 10. ディスプレイデバイス 11. センシングデバイス 12. その他関連事項
OQD	<b>Optical and Quantum Devices</b>

光・量子デバイス	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レーザ技術開発 (試作, 設計, 原理)</li> <li>2. レーザエネルギー応用 (レーザ同位体分離, 核融合, 医用)</li> <li>3. レーザコンポーネント (半導体レーザ, 光デバイス, 光IC)</li> <li>4. レーザプロセッシング (物質処理, 微細加工)</li> <li>5. 計測 (ファイバ応用)</li> <li>6. その他関連事項</li> </ol>
<p style="text-align: center;">E C T</p> <p>電子回路</p>	<p style="text-align: center;"><b>Electronic Circuits</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電子回路一般</li> <li>2. 電子回路部品</li> <li>3. 集積回路</li> <li>4. 非線形回路</li> <li>5. アナログ回路</li> <li>6. デジタル回路</li> <li>7. 高周波回路</li> <li>8. EM デバイス回路</li> <li>9. 発振回路</li> <li>10. 実装技術</li> <li>11. 電子回路の雑音</li> <li>12. 電子回路への計算機応用</li> <li>13. 電子回路教育</li> <li>14. その他関連事項</li> </ol>
<p style="text-align: center;">I P</p> <p>情報処理</p>	<p style="text-align: center;"><b>Information Processing</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報処理基礎および応用</li> <li>2. 情報処理実現のためのソフトウェア、ハードウェア技術</li> <li>3. 情報処理の産業応用</li> <li>4. 環境情報処理</li> <li>5. ビッグデータ解析とその応用</li> <li>6. 人工知能</li> <li>7. 新たな情報処理パラダイムとその社会実装</li> <li>8. ヒューマンインタフェース</li> <li>9. ヒューマン・ロボット・インタラクション</li> <li>10. 自然言語処理・機械翻訳</li> <li>11. 進化的計算</li> <li>12. データ処理</li> <li>13. メディア情報処理</li> <li>14. コミュニケーション解析</li> <li>15. バーチャルリアリティ・拡張現実</li> <li>16. 感性・感情情報処理</li> </ol>
CMN	<p style="text-align: center;"><b>Communications</b></p>

<p>通信</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 光通信</li> <li>2. 無線通信</li> <li>3. 移動体通信</li> <li>4. 衛星通信</li> <li>5. 電力用通信</li> <li>6. 鉄道用通信</li> <li>7. 産業用通信ネットワーク</li> <li>8. IoT/M2M</li> <li>9. 通信用エレクトロニクス</li> <li>10. 電磁環境</li> <li>11. その他, 通信関連技術</li> </ol>
<p>MBE</p> <p>医用・生体工学</p>	<p><b>Medical and Biological Engineering</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工学技術の医学応用および医学・生物学への応用一般 (医用工学, 生体計測制御, 生体・生命情報解析, 生体機能代行, 予防医用工学)</li> <li>2. 生命・生体の仕組みの工学への応用 (生体工学, 生体特性・機能の模倣, バイオニクス)</li> <li>3. その他関連事項</li> </ol>
<p>IS</p> <p>情報システム</p>	<p><b>Information Systems</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報システム (製造・流通・金融・行政・教育・医療・観光・交通など)</li> <li>2. システム構築・運用</li> <li>3. 業務モデリング</li> <li>4. 最適化</li> <li>5. シミュレーション</li> <li>6. データマイニング</li> <li>7. 知識情報処理</li> <li>8. IoT</li> <li>9. クラウドコンピューティング</li> <li>10. リスク管理</li> <li>11. 情報セキュリティ</li> <li>12. サービスサイエンス</li> <li>13. ビジネスプロセス管理</li> <li>14. 意思決定</li> <li>15. 情報システム評価</li> </ol>
<p>ST</p> <p>システム</p> <p>* 1</p>	<p><b>Systems</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. システム理論</li> <li>2. モデリング</li> <li>3. シミュレーション</li> </ol>

	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 最適化, 組合せ最適化, 多目的最適化</li> <li>5. ソフトコンピューティング</li> <li>6. メタヒューリスティクス</li> <li>7. システム評価・解析</li> <li>8. 意思決定論</li> <li>9. 大規模システム</li> <li>10. 確率システム</li> <li>11. 離散事象システム</li> <li>12. 自律分散システム</li> <li>13. ハイブリッドシステム</li> <li>14. スケジューリング</li> <li>15. ニューラルネットワーク</li> <li>16. 進化計算</li> <li>17. ファジィ理論</li> <li>18. 機械学習</li> <li>19. 人工知能</li> <li>20. 群知能</li> <li>21. マルチエージェントシステム</li> <li>22. 創発システム</li> <li>23. ビッグデータ</li> <li>24. エネルギーシステム・スマートコミュニティ</li> <li>25. カオス</li> <li>26. フラクタル</li> <li>27. 複雑系</li> <li>28. 以上の項目の応用</li> </ol>
<p style="text-align: center;">C T</p> <p style="text-align: center;">制御</p> <p style="text-align: center;">* 1</p>	<p style="text-align: center;"><b>Control</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 制御理論(線形・非線形)</li> <li>2. モデリング・シミュレーション</li> <li>3. システム同定・推定</li> <li>4. 制御系設計</li> <li>5. 制御系解析</li> <li>6. 最適制御</li> <li>7. 適応・学習制御</li> <li>8. データ駆動型制御</li> <li>9. ロバスト制御</li> <li>10. 予測・予見制御</li> <li>11. PID 制御</li> <li>12. デジタル制御</li> <li>13. 分散協調制御</li> <li>14. 量子化制御</li> <li>15. ロボット・メカニカルシステム・制御</li> </ol>

	16. プロセスシステム・制御 17. 情報ネットワークシステム・制御 18. 分布・むだ時間システム・制御 19. 大規模システム・制御 20. 制御応用 21. 制御工学・制御技術教育 22. 制御に関わる各種計測・信号処理
P I  知覚情報  * 2	<b>Perception Information</b>  1. 視覚 2. 聴覚 3. 触覚 4. 嗅覚 5. 味覚 6. 力覚 7. 滑り覚 8. ニオイ 9. 画像 10. 音声 11. 音 12. 光 13. センサ 14. 信号処理 15. モデリング 16. シミュレーション 17. センシング 18. コンピュータビジョン 19. パターン認識 20. 学習 21. ヒューマンインタフェース 22. ハイブリッド 23. フュージョン及びこれらの応用
T S I  分野横断型 新システム創成  * 3	<b>Transdisciplinary Systems Innovation</b>  1. 電力システム 2. エネルギー・環境システム 3. 交通システム 4. 上下水システム 5. 医療システム 6. 農業システム 7. 生産システム 8. 電子取引システム

	<ol style="list-style-type: none"><li>9. FinTech・金融システム</li><li>10. 経営システム</li><li>11. 社会システム</li><li>12. 教育システム</li><li>13. 危機管理・防災システム</li><li>14. サービス・システム</li><li>15. マスカスタマイゼーション</li><li>16. エコシステム</li><li>17. システム連携</li><li>18. 統合システム</li><li>19. 超システム</li><li>20. データモデル</li><li>21. 標準データ</li><li>22. 標準化</li><li>23. スマートシティ</li><li>24. スマート社会</li><li>25. 超スマート社会/Society 5.0</li><li>26. Connected Industries</li><li>27. Cross Technology</li><li>28. Cyber Physical Systems</li><li>29. Digital Twin</li><li>30. Interdisciplinarity</li><li>31. Transdisciplinarity</li><li>32. System of Systems</li><li>33. Systems Innovation</li></ol>
--	---

\* 1の研究会は、平成22年1月より新設いたしました。

\* 2の研究会は、平成24年1月より新設いたしました。

\* 3の研究会は、平成30年3月より新設いたしました。

〔産業応用部門 (D部門)〕

Industry Applications Society

英文略称 研究会名	研究会英文名称 取扱う主な研究分野
S P C  半導体電力変換	<b>Semiconductor Power Converter</b>  1. 電力用半導体デバイス (SiC デバイス, GaN デバイス, 太陽電池を含む) の応用技術 2. パワーIC とその応用技術 3. 電力用高密度化実装技術 (L, C, その他要素部品を含む) 4. 電力変換回路・方式 (新エネルギー活用技術, 省エネ化技術を含む) 5. 無効電力と高調波の抑制・制御 (フィルタ, EMI/EMC を含む) 6. 電力変換装置への制御理論の適用 7. 各種電源装置 (無停電電源装置, スイッチングレギュレータ, 高周波電源を含む) 8. 電力変換装置の応用一般
I I C  産業計測制御	<b>Industrial Instrumentation and Control</b>  1. センシング技術, 信号処理技術の応用 2. 各種センサの制御への応用 3. 診断・監視, 生体計測, 環境計測 4. 工場内通信, 制御用ネットワーク 5. ニューラルネットワーク, AI の産業応用 6. 情報知能システムの産業応用 7. 非線形最適化理論・技術の産業応用 8. ロバスト制御・適応制御の産業応用 9. 工場プラントの制御, ロボット技術と応用 10. 制御機器・装置, プロセスディスプレイ 11. システムモデリング
M E C  メカトロニクス制御	<b>Mechatronics Control</b>  1. モーションコントロール 2. アクチュエータとサーボ技術 3. ロボットの制御と応用 4. デジタル制御・ロバスト制御の産業応用 5. オブザーバ・推定理論の産業応用 6. ノンホロノミック系の制御 7. マイクロメカニズム・極小運動システム 8. 触覚・力覚センシングと制御, ハプティクス 9. 生物模倣型メカトロニクス 10. 電気自動車・輸送機器の制御

	11. 安全・災害支援のための制御技術
MD モータドライブ * 1	<b>Motor Drive</b> 1. 各種電動機の制御技術 2. 各種発電機の制御技術 3. 電動機駆動に適した制御理論 4. 各種電動機の制御用モデル (パラメータ計測を含む) 5. モータドライブシステム実用化技術 (EMI/EMC, パッケージングを含む) 6. 駆動回路や制御回路の実装技術 (DSP や FPGA を含む) 7. 回転機用センサ技術 8. 電動機駆動適用技術
RM 回転機	<b>Rotating Machinery</b> 各種回転機の解析, 設計, 制御, 試験法, 材料に係る技術分野: 1. 同期機 (巻線界磁形, 永久磁石形) 2. 誘導機 3. 直流機 4. リラクタンスモータ 5. 小形モータ 6. その他回転機一般 (応用システムにおける回転機, 特殊回転機, 回転センサ, 回転機の保護・振動・騒音・冷却等)
LD リニアドライブ	<b>Linear Drives</b> 1. リニアモータ (リニアモータ, リニア同期モータ, リニア誘導モータ, リニア直流モータ) 2. 多次元・新世代アクチュエータ (リニア電磁アクチュエータ, 平面モータ, 球面モータ, 非電磁アクチュエータ) 3. 磁気浮上 (吸引, 反発浮上, 磁気軸受) 4. 各種の解析手法 (電磁界解析, 運動解析, 電磁流体運動解析) 5. 材料技術 (永久磁石材, 超電導材, 支持機構, 圧電材料) 6. システム技術 (センサ・コントローラ・ドライバ・電源, 特性表示, 評価手法) 7. 医用アクチュエーション技術 (人工心臓, ME 機器, 細胞操作用 MEMS, 医用エネルギー伝送, 電池) 8. リニアドライブ応用技術 (主として共通的又は基礎的技術)
HCA 家電・民生 * 2	<b>Home and Consumer Appliances</b> 家電・民生分野における, 1. 省エネ・創エネ・蓄エネ対応技術 2. リサイクル・省資源・リユース対応技術 3. スマートグリッド連携家電システム

	<ul style="list-style-type: none"> <li>4. スマートメータ応用技術</li> <li>5. HEMS 応用技術, および, それらを支える</li> <li>6. インバータ技術</li> <li>7. コンバータ技術</li> <li>8. モータ技術</li> <li>9. 高周波電源技術</li> </ul>
<p style="text-align: center;">V T</p> <p>自動車</p> <p style="text-align: center;">* 3</p>	<p style="text-align: center;"><b>Vehicle Technology</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 自動車環境対応技術(低燃費, 低エミッション, エンジン制御技術)</li> <li>2. 自動車安全システム(走行環境認識センサを含む)</li> <li>3. 自動車駆動システム(車両制御, 自動車用モータ, 自動車用パワーエレクトロニクス)</li> <li>4. 車載情報・制御システム(高信頼化手法, ネットワークなど)</li> <li>5. 自動車電源システム(電源システム, パワー素子)</li> <li>6. 自動車用センサ・アクチュエータ</li> <li>7. 自動車用コントローラ(EMC)</li> <li>8. 自動車用電池&amp;キャパシタ</li> <li>9. 自動車用エネルギーストレージ&amp;パワーサプライ</li> <li>10. クルマの電動化</li> <li>11. トータルエネルギーマネジメント</li> <li>12. スマートグリッドとインフラ協調</li> <li>13. HV, PHEV, EV, FCV, アイドリングストップ車</li> <li>14. 自動車用充電器・放電器</li> </ul>
<p style="text-align: center;">I T S</p> <p>I T S</p> <p style="text-align: center;">* 4</p>	<p style="text-align: center;"><b>Intelligent Transport Systems</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 道路電気・通信設備 (電力, 通信, 照明, 換気, 防災)</li> <li>2. 交通管理システム (センシング, モニタリング, 信号制御, 情報提供)</li> <li>3. 自動車情報システム (移動体通信, ナビゲーション, 運行管理)</li> <li>4. 自動車エレクトロニクス (車載機器, 運動制御, 知能化)</li> <li>5. 知能化道路交通システム (路車間通信, 道路走行支援, 安全運転支援, 自動料金収受, ロードプライシング, プローブ応用路車協調, 自動運転)</li> <li>6. 交通シミュレーション (交通流, 交通状況予測, 料金所ゲート制御, 合分流制御, 経路情報)</li> <li>7. HMI (ITS のサブシステムにおける HMI, システムのドライバ受容性と社会受容性)</li> </ul>
<p style="text-align: center;">T E R</p> <p>交通・電気鉄道</p>	<p style="text-align: center;"><b>Transportation and Electric Railway</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 交通システム一般 (総合交通システム, 都市交通システム, 異種交通システム間の連携, 等を含む)</li> <li>2. 電気鉄道 (電力供給方式, 集電システム, 電力エネルギー変換・貯蔵,</li> </ul>

	<p>車両電気，運転保安システム，列車群制御，駅システム)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 浮上式鉄道</li> <li>4. 特殊鉄道・新交通システム</li> <li>5. 昇降機</li> <li>6. 航空交通</li> <li>7. 海上交通</li> <li>8. 移動体通信システム</li> <li>9. 交通・電気鉄道関連環境・エネルギー</li> <li>10. 交通・電気鉄道関連国際規格</li> </ol>
<p><b>MZK</b></p> <p>ものづくり</p> <p>* 5</p>	<p><b>Monozukuri</b></p> <p>プロセス工業（鉄鋼，非鉄，化学，石油，ゴム，ガス，紙パルプ，食品など），製造・電設（電気，機械精密，金属，自動車，造船，土木，電気・電子機械部品，電設工業など）などの産業分野における，</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. パワーエレクトロニクス応用技術</li> <li>2. 計測制御・最適化技術</li> <li>3. ソフトウェア技術</li> <li>4. 自動化・システム化技術（ロボット，各種自動機械，通信・情報伝送技術など）</li> <li>5. 環境・省エネ・創エネ技術</li> <li>6. 安全管理技術</li> <li>7. エンジニアリング技術（設備計画，新技術の適用含む）</li> <li>8. 診断・維持管理技術</li> </ol>
<p><b>IIS</b></p> <p>次世代産業システム</p> <p>* 6</p>	<p><b>Innovative Industrial System</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間・機械協調システム</li> <li>2. 次世代生産システムにおけるヒューマンファクター</li> <li>3. 技術・技能の情報化とその支援システム</li> <li>4. 高度地理空間情報技術</li> <li>5. 地域社会振興技術</li> <li>6. 人間活動支援技術</li> <li>7. 産業応用パターン認識</li> <li>8. サービス提供型空間知能化技術</li> <li>9. 高品質ユーザビリティインタフェース</li> <li>10. 画像センシング技術</li> <li>11. その他次世代にふさわしい産業システム化に関する技術</li> </ol>
<p><b>SMF</b></p> <p>スマートファシリティ</p> <p>* 7</p>	<p><b>Smart Facilities</b></p> <p>建築施設・設備（電力，エネルギー，空調，照明，情報通信など）及びそれらの連携・融合を対象とした</p>

	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スマート化（高度化）技術</li> <li>2. エネルギーマネジメント技術</li> <li>3. ファシリティマネジメント技術（劣化・寿命診断を含む）</li> <li>4. 受配電技術（自家用発電設備を含む）</li> <li>5. 自動化・最適制御技術</li> <li>6. 監視・制御及び通信・ネットワーク技術</li> <li>7. 情報処理技術</li> <li>8. セキュリティ技術</li> <li>9. 安心・安全及び高信頼化技術（レジリエント化を含む）</li> <li>10. リスクマネジメント技術</li> <li>11. 環境負荷低減技術</li> <li>12. サービス提供技術</li> <li>13. 標準化技術</li> <li>14. コミッショニング技術</li> </ol>
<p>P P E</p> <p>公共施設</p>	<p><b>Public Plant Engineering</b></p> <p>上水道施設（浄水場など）、下水道施設（下水処理場など）を中心としたプラントで使われる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 監視制御システム</li> <li>2. コントローラ</li> <li>3. 計装システム</li> <li>4. 制御盤</li> <li>5. 受配電機器</li> <li>6. 設備管理システム</li> <li>7. 設備保守支援システム</li> <li>8. 広域統合ネットワークシステム</li> <li>9. 防災システム</li> <li>10. 運転計画支援システム</li> <li>11. 省エネ支援システム</li> </ol>

\* 1 の研究会は、平成 22 年 4 月より新設いたしました。

\* 2 の研究会は、平成 23 年 1 月より新設いたしました。

\* 3 の研究会は、平成 13 年 4 月より新設いたしました。

\* 4 の研究会は、平成 14 年 1 月より「道路交通」から「ITS」に名称を変更いたしました。

\* 5 の研究会は、「金属産業」，「一般産業」，「産業電力電気応用」を統合し、平成 23 年 1 月より新設いたしました。

\* 6 の研究会は、平成 22 年 9 月より名称を変更いたしました。

\* 7 の研究会は、平成 26 年 4 月より名称を変更いたしました。

平成 28 年 4 月より取扱う主な研究分野を変更いたしました。

\* 「産業電力電気応用」の研究会は、平成 23 年 1 月より「半導体電力変換」，「モータドライブ」，「ものづくり」，「次世代産業システム」，「家電・民生」，「生産設備管理」の研究会へ統合いたしました。

〔センサ・マイクロマシン部門 (E部門)〕

Sensors and Micromachines Society

英文略称 研究会名	研究会英文名称 取扱う主な研究分野
<p style="text-align: center;"><b>MS S</b></p> <p>マイクロマシン・セン サシステム</p> <p style="text-align: center;">* 2</p>	<p style="text-align: center;"><b>Micromachine and Sensor System</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. MEMS・NEMS</li> <li>2. フィジカルセンサ (機械量, 電気・磁気, 光・放射線など)</li> <li>3. マイクロミラーなどの光応用デバイス</li> <li>4. スイッチやフィルタなどの高周波応用デバイス</li> <li>5. エネルギーハーベスティングなどの発電やエネルギー変換デバイス</li> <li>6. 極限・耐環境センサ</li> <li>7. 材料・プロセス技術</li> <li>8. パッケージング</li> <li>9. 電子回路との集積化</li> <li>10. デバイス内の信号処理・駆動方法</li> <li>11. IoT (Internet of Things)</li> <li>12. AI (Artificial Intelligence)</li> <li>13. 構造物モニタリング</li> <li>14. 農業支援システム</li> </ol>
<p style="text-align: center;"><b>CHS</b></p> <p>ケミカルセンサ</p> <p style="text-align: center;">* 2</p>	<p style="text-align: center;"><b>Chemical Sensor</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガスセンサ</li> <li>2. イオンセンサ</li> <li>3. バイオセンサ</li> <li>4. マイクロケミカルセンサ</li> <li>5. ケミカルセンサシステム</li> <li>6. ケモメトリックス・信号処理</li> <li>7. 味覚・嗅覚・感性センサ</li> <li>8. 味覚・嗅覚情報提示技術</li> <li>9. その他ケミカルセンサ</li> </ol>
<p style="text-align: center;"><b>BMS</b></p> <p>バイオ・マイクロシス テム</p> <p style="text-align: center;">* 1</p>	<p style="text-align: center;"><b>Bio Micro Systems</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. マイクロ流体デバイス</li> <li>2. バイオ化学医療分野向きマイクロマシンとセンシングシステム</li> <li>3. バイオMEMS</li> <li>4. 治療・診断用デバイス (能動カテーテル, 医療用ロボット, 神経プローブ, 人工臓器, 再生医療, POCT (point of care test)用デバイス, ヘルスケアチップ)</li> <li>5. 細胞チップ</li> </ol>

	<ol style="list-style-type: none"><li>6. バイオ関連材料を含めたマイクロマシンングプロセス</li><li>7. MEMS による一分子観測</li><li>8. ナノバイオ研究用マイクロマシンツール</li><li>9. バイオ機能融合マイクロマシン</li><li>10. 自己組織化現象応用プロセス</li><li>11. 分子認識応用デバイス</li><li>12. バイオ模倣マイクロシステム技術</li></ol>
--	---

\* 1の研究会は、平成17年4月より新設いたしました。。

\* 2の研究会は、平成31年1月より取扱う主な研究分野を変更いたしました。

\* 「フィジカルセンサ」の研究会は、平成31年1月より「マイクロマシン・センサシステム」の研究会へ統合いたしました。

事業サービス課 行

e-mail : [event@iee.or.jp](mailto:event@iee.or.jp) FAX : 03-3221-3704

開催日 : \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

## 電気学会研究会発表申込書

発表を希望する研究会名	研究会 月開催テーマ ( )			受付月日	*	論文番号	*
題目							
(ふりがな) 氏名 (講演者に○印)							
生年月日 (西暦)	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
勤務先							
所属学会							
(ふりがな) 氏名 (講演者に○印)							
生年月日 (西暦)	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
勤務先							
所属学会							

講演者に対する本会からの連絡先 (くわしく)	勤務先住所	〒	
	勤務先所属名		
	連絡者	様	
	電話	FAX	
	e-mail		

あなたの論文は、どんな性格のものでしょうか。右記に○印をつけて下さい。	純然たる理論	理論と実験結果との対象	施設工事等の報告
	実験結果の報告	試作品あるいは製品化の報告	その他

## 論文内容概要 (200文字程度)

--

お願い：\*印の欄は記入しないで下さい。

(注) この申込書を受理した後、研究会の開催日時・原稿締切日が決まりましたら、ご通知申し上げます。原稿は4枚から6枚以内、1枚2,600字、「白黒印刷の紙」での提出をお願いします。

# 研究会資料の作成見本

(付録 2)

上余白 40mm

## (1) シールドドロープコイルを用いた 1MHz - 1.5GHz 帯における

### 磁性薄膜のパーミアンス計測

1行アキ 氏名 12P

(2) 電気太郎\*, 学会二郎, 研究花子 (日本電機大学), 電力三郎 (日本電力)

1行アキ

### Thin-Film Permeance Measurements Using Shielded Loop Pickup Coil in the 1MHz-1.5GHz Range.

(3) Taro Denki, Jiro Gakkai, Hanako Kenkyu (Nihon Denki University) 英文氏名 9 P  
Saburo Denryoku (Nihon Electric Power Company) 英文概要 9 P

1行アキ Abstract

We have developed a permeance meter in the 1MHz-1GHz range using shielded loop pickup coil and micro-strip pickup coil. We must consider all of signal-to-noise ratio in the MHz range, impedance matching through-out the driving plates and pickup coil, mode matching of pickup coil, electromagnetic mode in driving plates, induced voltage by electric field.

1行アキ

キーワード: パーミアンス, 平行平板励磁コイル, シールドドロープコイル, 電界 和文キーワード 9 P  
(Permeance, parallel plates, driving plates, shielded loop coil, electric field) 英文キーワード 9 P

1行アキ

1. はじめに 広帯域にわたるパーミアンスの測定が可能となったので報告する。

磁性薄膜の高周波パーミアンス (透磁率の平均値と膜厚との積) は薄膜磁気ヘッド, 薄膜電源, 携帯電話用 LC フィルタ等マイクロ磁気デバイスの設計, 評価に不可欠な量である。また

2. GHz までのパーミアンス測定に関する課題

図 1 は LC 共振を用いたスナバエネルギーの回生回路を示すものである。この回路において, Cs と Ds は従来どおりスナバコンデンサ, スナバダイオードであり

右余白 16mm

左余白 16mm

マージン 10mm

片段 26 字, 84mm

## 図 1

図面, 写真, 表などの説明は, 原則として英語表記とする。

図面・写真・表などの説明は日本語・英語を併記, 表題は原則として英語表記。

図 1 スナバエネルギー回生回路  
Fig. 1 A snubber energy recovery circuit

の除去など, マイクロ波工学の技術が不可欠である。上記の項目を考慮して測定装置を試作した結果, 1MHz~1.5GHz の

下余白 25mm



## 電気学会研究会原稿の書き方 (付録2 参照)

### 1. まえがき

発表論文は、A4 判原寸の簡易オフセット印刷により出版します。この簡易オフセット印刷では、原稿の書き方が不適當であると印刷の原版になりませんので、執筆のときは、この書き方をよくお読みになったうえで、原稿をお書き下さい。

研究会原稿の書き方は、「電気学会部門誌への投稿手引」に準拠しておりますが、主な相違点は以下のとおりです。

- ・原稿用紙上マージンが 40mm である。(部門誌は 25mm)
- ・著者に会員・非会員の区別を記載しない。(部門誌は記載必須)
- ・発表者に\*を付する。(部門誌は不要)
- ・所属を著者の後に ( ) 書きで記載する。(部門誌は左下に記載)
- ・著者紹介は不要。(部門誌は末尾に記載)

### 2. 原稿用紙および資料の装丁

専用の原稿用紙はなく、A4 判上質白紙(再生紙でも可)(縦 29.7cm×横 21.0cm)を使用する。1 枚(1 ページ)の字詰は、26 字×50 行×2 段(2,600 字)。資料は、発表論文ごとに製本するのではなく、開催日単位で合本(1~2 冊)の形で製本されます。

### 3. 分量

図面・写真・表も含んで原則として 6 ページ以内としてください。なお、やむを得ず 6 ページを超える場合は、原稿提出のときに「別刷・超過頁製版注文書」(付録 4)にてお申し込み下さい。6 ページを超過する分について 1 ページにつき 5,000 円(税別)をお支払い下さい。

### 4. 配置

題目等は研究会資料の作成見本(付録 2)に従って次の①~⑥の順序で記入し、本文を書き始めて下さい。

- ①題目：原稿用紙第 1 行中央に書く(長ければ 2 行でも可)。
- ②著者名及び所属：表題の下を 1 行あけて、次の行から中央に書く。  
発表者の区別：著者が 2 人以上の場合は、見本配置例のように発表者名の右肩に\*印を付ける。
- ③英文による表題、氏名(所属)：著者名及び所属の下を 1 行あけて、次の行から中央に書く。
- ④英文概要(アブストラクト 研究会システム日本語版使用の場合：50 Words 程度、英語版使用の場合：100 words 程度)：英文による表題、氏名(所属)の下を 1 行あけて次の行から書く。半角 4 文字あけて書き始める。
- ⑤キーワード：英文概要の下を 1 行あけて左側から日本語で書く。次の行に英文で書き ( ) で閉じる。
- ⑥本文：キーワードの下を 1 行あけて、原則として片段 1 行 26 字×50 行の 2 段組(2,600 字)で書く。

### 5. 書き方および文字の色

原稿は、ワープロで作成するほか、手書きでもよい。

- ・文字の色は、すべて黒色とし、あまり薄くならないように配慮する。また、特に手書きの場合は、

一様な濃さで書く。

- ・ページは、必ず用紙の右下欄外に、1/6, 2/6, ... 6/6 と書く。なお、右上欄外に、論文番号を記入する。

## 6. 図面および表

原稿用紙の枠内の任意の場所に黒色で書くか、白色あるいは青色方眼紙（他の色は不可）に黒色で書いて貼り付ける。写真も同様に貼り付ける。なお、貼り付ける場合は、次の点に注意する。

- ・用紙の枠からはみ出さないようにする。
- ・全体にのり付けしないで、裏面の四隅だけにのり付けをする。
- ・写真は、必要により網掛処理を行います。  
(カラーの図表は印刷が不鮮明になるため、黒色で記載願います。)
- ・図、表、写真などの表題は原則として日本語・英語併記とする。
- ・図、表、写真などの説明は原則として英語表記とする。

## 7. 参考文献

引用文献の表記は原則として英文とする。ただし、英文表記のない文献を引用する場合は日本語でも差し支えない。著者名は著者全員を、またタイトルは省略しないで記載してください。

記載内容は、『著者名：「題目」,書名,巻,号,ページ（西暦発行年月）』です。下記を参照ください。

- (a) 日本語論文などの場合（英語・日本語の併記、(注)ただしタイトルなどに英文表記がない場合は日本語のみとする。)

T. Denki, M. Hanai, and G. Misaki: "Future Technology for Power System Analysis", T. IEE Japan, Vol.130-B, No.1, pp130-136(1999-1)(in Japanese)

電気太郎・花井桃子・岬 五郎：「電力系統解析技術の将来」,電学論 B,130,1,pp.130-136 (1999-1)

- (b) 国際会議などの論文集の場合

B. Yamada: "Experimental Studies of new micro-mechanical vibration systems", Proc. IEEE Conf. on Micro-mechanical Component, No21, pp.123 - 145, Paris, France(1999-4)

- (c) 単行本などの場合（ただし、日本語単行本の表記は上記(a)の(注)のような取扱いとする。)

Y. Sankar: Management of Technological Change, p.10, John Wiley, New York(1991)

## 8. 別刷, その他

発表論文の別刷を希望される場合は、原稿提出のときに、お申し出下さい。原稿提出後には受付できません。ただし、価格は下表のとおりです。

別刷価格表 (税別)

(平成 26 年 4 月 1 日)

注文部数	別刷価格	注文部数	別刷価格
30 部	9,000 円	200 部	30,000 円
50 部	12,000 円	250 部	32,000 円
100 部	18,000 円	300 部	34,800 円
150 部	24,750 円		

(注 1) 別途, 消費税を頂きます。

(注 2) 送料は学会が負担いたします。

## 一般社団法人 電気学会 著作権譲渡書

(本譲渡書を論文投稿時に提出して下さい)

論文番号: \_\_\_\_\_

論文題目:

著者氏名:(全員)

所属機関:(全部)

当会研究会資料に掲載される論文について、著者全員は、「電気学会研究会への投稿の手引き」の著作権・出版権に関する記述を理解し、以下の諸項にご同意する。

- (1)著作権（日本国著作権法第 21 条から第 28 条までに規定されたすべての権利）の電気学会への譲渡。
- (2)他の著作物の著作権を侵害していないこと。著作権許諾が必要な引用については無償での転載許諾を書面で得ていること。
- (3)内容に本質的な貢献を行った人は著者に含まれていること。
- (4)必要な場合には著者の所属機関のしかるべき権限を有する人の同意を得ていること。

なお、本書によって著作権の譲渡を行っても、以下の権利は著者の手元に残るものとする。

- \*著作権以外の例えば特許権のような権利
- \*著者が自分の業績をまとめる際にその一部分として使用すること
- \*著者が営利を目的とせずに行う複製（例えば教育資料としての使用）
- \*その他、日本の著作権法に反しない利用

著者名： \_\_\_\_\_ 署名： \_\_\_\_\_ 日付： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日  
(著者が複数の場合には代表者)

(以下は著者の所属機関で、著作権譲渡に責任者の承認が必要な場合に使用して下さい)

責任者名： \_\_\_\_\_ 署名： \_\_\_\_\_  
(署名した著者の所属機関の責任者名)

役職： \_\_\_\_\_ 日付： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

(付録4)

有 料 分

## 電気学会研究会 論文別刷・超過頁製版 注文書

研 究 会 名				*請求用紙に関し、貴所指定の用紙がありましたら、申し込みと同時に ご送付下さい。
論 文 番 号	— —	( 月分)		
題 目				
論文注文部数	部	支払方法	<input type="checkbox"/> 個人払い <input type="checkbox"/> 勤務先払い	
超過頁製版代	P × @ 5,000円 (税別)			
請求書用紙*	見積書 通	納品書 通	請求書 通	
請求書記載宛名				
請求書日付	<input type="checkbox"/> 記載する		<input type="checkbox"/> 記載しない	

上記の通り申し込みます。

年 月 日

申 込 者 名

送 付 先 ・ 住 所

電 話

F A X

以下は記入しないで下さい。

論文別刷代金	部 × @	円	
超過頁製版代	P × @	5,000円 (税別)	
消費税			
合計			
別刷発送日		請求日	
請求書No.	C	入金日	

A	B	C	D	E
%	%	%	%	%

発表論文の別刷を希望される場合は、原稿提出のときにお申し出下さい。原稿提出後には受付できません。ただし、別刷価格は、下表のとおりです。

&lt;別刷価格表&gt; (税別)

(平成26年4月1日)

注文部数	別刷単価	別刷価格	注文部数	別刷単価	別刷価格
30部	300	9,000円	200部	150	30,000円
50部	240	12,000円	250部	128	32,000円
100部	180	18,000円	300部	116	34,800円
150部	165	24,750円			

(注1) 別途、消費税を頂きます。(注2) 送料は学会が負担いたします。